

書牘卷之二(一)

預り米証文

覚

一、米何百石 此俵何斗何升入何千俵

右は拙者屋敷内何番

土蔵へ積入、預り置候処実

正也、御入用次第何時にても

錠前相明ケ申へく候、後日

の為、預り証書差入候也、

明治何年何月何日

第何大区何小区何町幾番地住

何某

何某殿

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。